日ごろ、みつろうを使うことはありますか？　暮らしの中でいろいろと活用できる天然素材。幕別町で道産のみつろうを販売する「ナルセ養蜂場」を訪ね、活用法や魅力を教えてもらった。

（相沢早希子）

みつろう 天然素材 ハチの巣材料 生活に役立てて

ろうそくや化粧品 用途は多彩

「みつろうとはミツバチの巣の材料。ミツバチが体内で作り、分泌するロウのことです」と、同店の成瀬潤姫さん。店では、完熟したハチミツにミツバチがかぶせたふたの部分や、巣枠からはみ出た箇所を集め、ごみを取り除いて製品化している。

用途として最も広く知られているのは、ろうそくだろう。みつろうの燃焼性が生かされている。成瀬さんは「すすが出にくく、ともる火のオレンジ色が特徴で、香りもいい」と話している。紙コップやシリコン型に芯を置き、溶かしたみつろうを流し入れて固めるだけなので、作るのも手軽だ。

その保湿力から、手足や髪の毛用クリームの材料にも向く。溶かして、ホホバオイルや太白ごま油など好みのオイルと混ぜ、冷やし固めて作る。用途などによって硬さを自由に調節でき、アロマオイルを加えてアレンジするのも楽しい。

防水性があるので、ワックスペーパーや布のラップ作りにも使われる。革製品に使う糸や釣り糸のろう引きのために、買い求める人もいると言う。

ナルセ養蜂場に並ぶみつろうは、ブロックタイプ（100㌘567円）と、六角形の粒々型（100㌘648円、10㌘86円）の2種類。簡易精製のため、化粧品などに使う場合はパッチテストをするのがお薦め。溶かす際は、可燃性であることに鑑み、じか火を避けて湯煎などで温めるのが安心だ。

各地でワークショップも行っており、6月22日には中札内村で開かれる催し「夏至のピクニックパーティー育つ庭」でキャンドル作りを教える。

◇

ナルセ養蜂場　幕別町札内新北町40の1　午前9時～午後6時ごろ　水曜定休　☎0155・56・2302

㊧ナルセ養蜂場で販売しているみつろう
㊨オレンジ色の炎を揺らすみつろうキャンドル

手作りのみつろうクリーム